

下伊那地方フロラ新発見 IV

浅野 一 男

Kazuo Asano : New Plants found Shimoina District, Nagano Prefecture IV

34. ヒメクロモジ *Lindera lancea* (Momiya) H. Koyama

下伊那におけるヒメクロモジの分布については、本誌22号(1989年)で述べたが、その後の調査で浪合村にもあることがわかった。標本はいずれも信州大学に納めてある。以下筆者の標本は採集者名を記さず採集日と標本番号、収納先だけを括弧内に記す。

浪合村蘭平 ca 1200 m (1989. 8. 2, no. 91968, SHIN), 同 (1989. 9. 15, no. 92857, SHIN), 浪合村松沢山磨崖仏周辺 ca 1150 m (1989. 7. 31, no. 91315, SHIN)。

35. ホソバヒメミソハギ *Ammannia coccinea* Rottb.

アメリカ大陸原産の帰化植物であるが、下伊那でも喬木村、飯田市川路、飯田市龍江の天龍川の川原で発見した。信州大学へ納めた標本は下記の通りである。

飯田市川路区川路 ca 350 m 1985. 9. 29, no. 93225 SHIN), 喬木村小川 ca 400 m (1989. 8. 22, no. 92501, SHIN)。

36. アメリカイヌホオズキ *Solanum americanum* Mill.

北米原産の本種が天龍川の川原のやや湿った土地に生えているのを、1989年8月22日におこなった喬木村小川地区の調査で見た。一般の図鑑には記されていないようなので、当該品の形態を示しておく。

茎は有稜で上向きの曲った毛が散生する。葉は有柄で互生し、葉身は広卵形、縁に大きな鋸歯があるかときに全縁、両面に伏毛が密生する。葉脈は下面に隆起する。花序は茎の途中から出て、やや散らばった散形状に白い花をふつう4~7個ときに1個つける。花柄、花軸、萼、花冠には上向きの曲った毛が生えている。花柄は長さ2~7 cm、花軸は1~2 mm、小花柄は6~8 mm。萼は5裂する。花冠は白色で径4~5 mm、先は5裂し、裂片は平開またはやや反曲する。雄蕊5本、花糸は無毛、葯は長さ1.5 mmほど。雌蕊1本、花柱の基部に立毛がある。液果は球形で径5~6 mm、黒褐色に熟す。種子は長さ1~1.5 mm

標本 (1989. 8. 22, no. 92509, SHIN) は信州大学に納めてある。

36. 木曾山脈側でみられる分布の南限地または最低所

(1) オオバヤナギ *Toisusu urbaniana* (Seemen) Kimura

浪合村蘭平にある蘭平スキー場の下を流れる恩田大川入川の標高約1200mの岸辺のオノエヤナギ林の中で、オオバヤナギの雄株を1本、1989年8月2日に発見した。今のところここが木曾山脈側の南限生育地のようなのである。標本 (1989. 8. 2, no. 92011, SHIN) は信州大学に納めてある。

(2) ヒメゴヨウイチゴ *Rubus pseudo-japonicus* Koidz.

亜高山針葉樹林の林床に生える本種が、前項オオバヤナギの生育地に隣接する標高約1200mの林内に生えていることを、1989年8月2日の調査で知った。標本 (1989. 8. 2, no. 92012, SHIN) は信州大学に納めてある。

(3) ズダクシュ *Tiarella polyphylla* D. Don

前項ヒメゴヨウイチゴと同じ林内に数株生えていた。標本は信州大学に納めてある (1989. 8. 2, SHIN)

(4) バイカオウレン *Coptis quinquefolia* Miq.

亜高山針葉樹林内に生活する本種が、三信国境に聳える茶臼山の北東斜面の売木村アテビ島 標高約1180mのサワラ林内に生えていた。発見したのは1989年5月4日であるが、すでに花期が終ろうとしていた。標本 (1989. 5. 4, no. 91363, SHIN) は信州大学に納めてある。

(5) イチョウラン *Dactylosteinia ringens* Reichb. fil.

上記売木村アテビ島はクロベ林の存在とその林床にあるセリバシオガマによって知られている。その林内で1989年5月4日に開花中のイチョウランを見た。標高約1180mの地である。標本 (1989. 5. 4, no. 91362, SHIN) は信州大学に納めてある。